

ささぐり GIKAIジャーナル

No.167 平成23年5月1日発行

春うらら・・・カブトの森公園



平成23年3月議会号

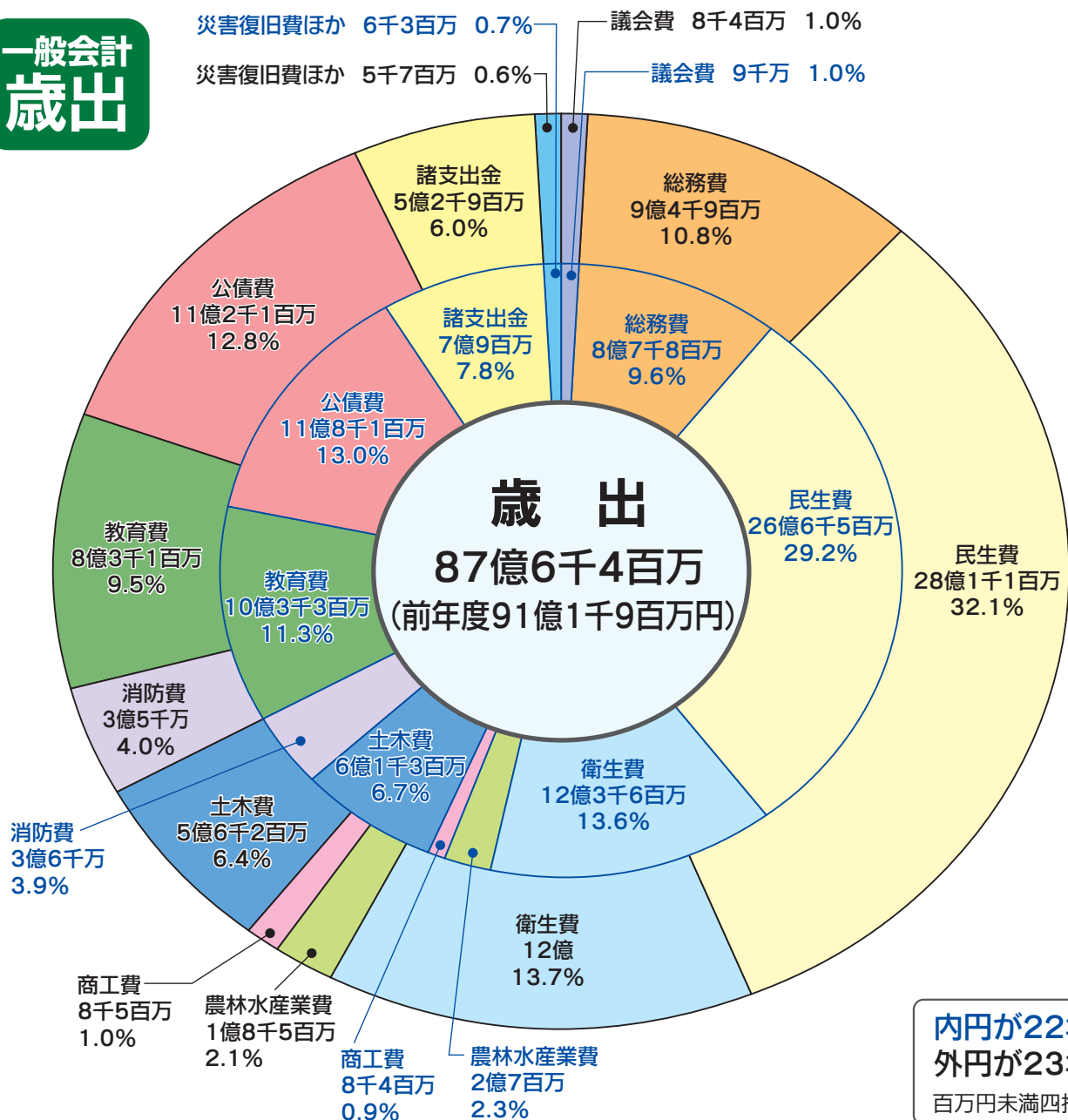
23年度一般会計予算は87億6千万円……	2
施政方針(町政の方向)……………	5
協働のまちづくりをさらに前進……………	6
東日本大震災支援……………	7
どげんするとなあ?……………	9

6,389万円

前年度比 約3.9%(約3.5億円)の減額

町のお金はこう使います

一般会計
歳出



平成23年度 一般会計予算

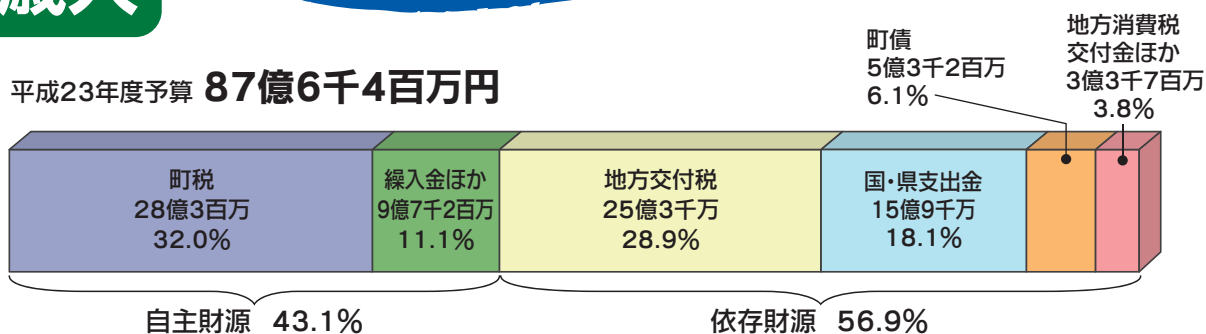
87億

一般会計
歳入

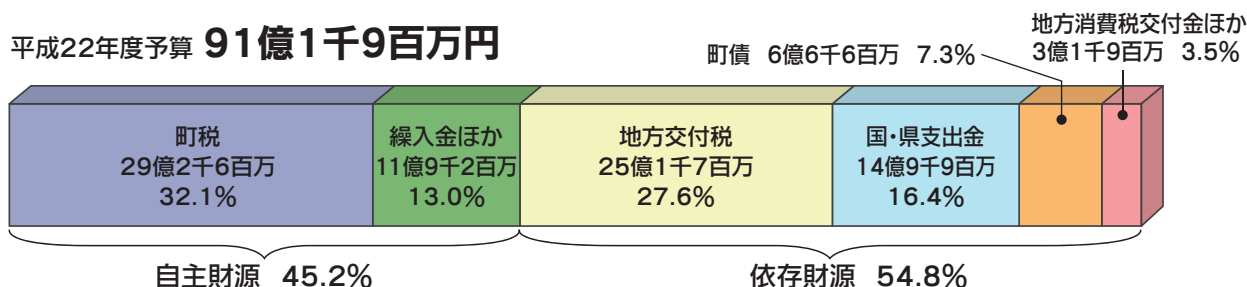
賛成多数可決

賛成 7 大楠・草場・阿部・松田
阿高・後藤・荒牧
反対 2 永柄・有吉

平成23年度予算 87億6千4百万円



平成22年度予算 91億1千9百万円



一般会計・特別会計総額

135億1,736万円 前年度比 約1.8%
(約2.5億円)の減額

特別会計予算

(百万円未満四捨五入 単位：円)

会 計		23年度予算	対前年度増減
国民健康保険		28億4千7百万	7千5百万
後期高齢者医療		3億2千4百万	▲ 7百万
公共下水道		9億1千5百万	2千2百万
水道事業	収益的支出	5億	3百万
	資本的支出	1億6千7百万	1千7百万
合 計		47億5千3百万	1億1千万

今年 の 町 の 主 な 仕 事

子ども手当	9億	9万円	
予防接種事業	1億	134万円	乳幼児18歳未満
妊婦健診事業		3,204万円	
がん検診事業		2,265万円	
緊急雇用創出事業		2,199万円	教育施設環境美化整備、広報紙・広報写真電子化 学校施設竣工図書マイクロ及び電子化
荒廃森林再生事業		2,685万円	森林セラピー基地の機能発揮のための林道維持
呑山公衆トイレ(新規)		2,613万円	バイオマストイレ 萩尾地区
乙犬中園線・乙犬切通線	1億5,000万円		継続分
下町若杉線	3,000万円		継続分
尾仲乙犬水害対策	3,000万円		継続分
篠栗中校舎内塗装(新規)		1,200万円	
北勢門小整備事業		5,054万円	22年度分繰越
水害対策事業		4,838万円	22年度分繰越 乙犬尾仲地区 勢門踏切周辺地区
豪雨災害復旧事業		5,210万円	22年度分繰越 農業施設、農地 総合運動公園

その他新規事業

全小学校に扇風機設置	1,439万円	各教室に4台
防災行政無線テレホンサービス設置(新規)	320万円	災害発生時対策
効果的介護予防事業の実施に関する 共同研究(新規)	270万円	平成23～27年度総額320万円

施政方針

三浦町長が23年度の施政方針を議会で述べました。
以下はその要約です。



三浦 正 町長

〈前文〉

「未来に続く持続可能なまちづくり」として、自分たちの町は自分たちの手でという自治意識による行動とその結果の積み重ねです。
篠栗町の10年後20年後を見据え、しっかりと「自治」を目指します。

●防災

- ・一昨年に引き続き2年連続で豪雨災害
- ・防災意識の高揚と災害に強いまちづくりを進める
- ・避難勧告の状況などを確認できるテレビホンサービスの導入

●高齢者福祉

- ・個人への現金給付を粕屋地区他市町と同レベルにし、健康で長生きの手助けを行うメリハリの利いた内容へ
- ・要介護認定率や医療費が県内1、2位を競うほど少ない本町
- ・九州大学健康科学センターと5カ年継続事業で、高齢者生活実態を共同研究

●障害者支援

- ・社会福祉法人の知的障害者ショートステイ施設が町内に年度内完成予定

●子育て支援

- ・子ども手当の支給
- ・各種ワクチン予防接種

●まちづくり

- ・種助成の充実
- ・昨年以上の要保育児童の受け入れと、待機児童解消のための新たな取り組みの検討

- ・「協働のまちづくり」をさらに前進
- ・昨年度に引き続き、「協働のまちづくり補助金」制度を300万円でスタート
- ・第5次総合計画の策定準備。作成手法をコンサルタントに頼らずできるだけ自前のものでつくりながら、歳出を最小限に
- ・「まちづくり基本条例」も合わせて策定検討
- ・「広報ささぐり」に有料広告欄を新設

●建設

- ・ホームページ上のバーナー広告枠も増やし、広告収入の増加を図る

●産業観光

- ・昨年9月25日にグランドオープンした「森林セラピー基地篠栗」を本格稼働

●その他

- ・電話予約による住民票の時間外受け渡しサービス（平日17時～21時・土日祝日9時～21時）を本年3月からスタート
- ・町有地売却による歳入増を図る
- ・篠栗町葬祭場「天空会館」の2階の「百合の間」を80人規模の葬儀会場に改装し、料金を引き下げる
- ・個性的な篠栗町のまちづくりを創造し、篠栗は一味違うと内外から思われるように、今年度も町民の皆様と地道な努力を重ねる
- ・他町職員に負けない、しっかり仕事ができる、「喜ばれて喜ぶ」職員の人材育成を図る

●教育環境

- ・乙大中園線・乙犬切通線整備事業が最重点課題、昨年度から一部工事を着工、今後交渉中の買収を早期完了し、順次着工予定
- ・昨年度スタートした下町若杉線の道路延長工事継続
- ・津波黒地区水路事業
- ・尾仲乙犬地区河川水害対策事業などの諸事業や側溝改修は、優先順位を考慮し、長期計画に沿って着実に進める
- ・3小学校普通教室に扇風機設置
- ・篠栗中学校廊下壁面塗装工事
- ・おおむね5年の教育目標や方向性を示す「篠栗町教育振興基本計画」を策定



篠栗中美術部生徒による作品を山手駅に飾る
(JR山手駅を明るくする会)

3月定例会

日程 3/4~17

協働のまちづくりを さらに前進

実施団体数14団体

(平成23年3月現在)

3月議会では、人事案件2件、条例の制定1件・廃止1件・改正3件、22年度の補正予算7件、23年度の予算5件が町長から上程され、全員賛成または賛成多数で可決しました。

議員の提案では、議員全員による発議が2件あり、全員賛成で可決しました。うち1件「東日本大震災」に向けての決議文を次ページに掲載いたします。

副町長に
藤和義氏を再任



副町長の藤和義氏は本年3月31日をもって任期満了でしたが、同氏を再任することについて、議会の同意を求められました。

(全員賛成同意)

人権擁護委員に
藤征弘氏を再任



人権擁護委員の藤征弘氏が本年6月30日をもって任期満了となるため、同氏の再任について、議会の意見を求められました。

(全員賛成同意)

「篠栗町住民生活に光をそそぐ基金」の設置
今後2カ年度で活用

この基金は、国の地域活性化交付金のうち、「住民生活に光をそそぐ交付金」を積立て、23・24年度で活用するためのものです。

主に地方消費者行政、DV対策・自殺予防等の弱者対策・自立支援、学校における不登校や引きこもりへの支援に充てられる予定です。

(全員賛成可決)

まちづくり課に都市計画業務の一部を移管

平成23年度から第5次篠栗町総合計画の策定準備に取り掛かります。

そのため、現在建設課にて分掌している都市計画業務の一部をまちづくり課に移管するものです。

(全員賛成可決)

町長等の給与の特例を廃止

町財政の厳しい中、平成18年4月から町長は給料月額を10%カット、副町長・教育長はそれぞれ5%カットの時限的な取組を行ってきました。本年3月で5年間にわたった、特例期間が満了することに伴い、同条例を廃止するものです。

(全員賛成可決)

農業委員会の選挙による委員14人への8人へ

篠栗町農業委員会の選挙による委員の定数は14人です。

篠栗町行政改革推進委員会から、定数見直しについて、「可能な限り削減の努力を求めると」いつ答申を受け、今回の改正を行うものです。

本年7月に行われる農業委員の選挙から適

用されます。

(全員賛成可決)

自治功労者の表彰基準を見直し

本議案は、功労表彰に該当する年齢及び在職年数等の見直しをおこなうものです。

社会状況の変化にともない、該当年齢の要件を60歳から70歳へ引き上げます。また、町職員として勤務した期間を在職年数に計算できる条文を廃止し、特別職や各種委員等の在職年数を短縮するものです。

(全員賛成可決)

対象者	在職年数
町長	8年以上
副町長・教育長	15年以上→12年以上
町議会議員	15年以上
区長 各種行政委員等	25年以上→18年以上
消防団員 (団長経験者)	25年以上→18年以上

「東日本大震災」支援に向けての決議

全員賛成可決

平成23年3月11日に発生した東日本大震災により、多くの尊い命が奪われました。被災され今なお厳しい生活を余儀なくされている方々に対し、心よりお見舞い申し上げます。

篠栗町議会では、3月14日、被災者支援に向けての決議を全会一致で可決しました。決議文は以下のとおりです。

【決議文】

平成23年3月11日に発生した「東日本大震災」は、巨大地震、大津波、原発炉心溶融など、国内観測史上最大の地震とそれに誘発した未曾有の大災害である。

岩手県大槌町では、町のほとんどが壊滅し宮城県南三陸町では、町民17,000人のうち約1万人と連絡が取れないなど、報道される被害状況が詳細になるにつれ、6,400人以上の犠牲者が出た阪神大震災を超える犠牲者となることが確実である。

また、福島第1原子力発電所の事故報道をみると、原発に対するこれまでの安全神話が根こそぎ失われてしまい、東日本への今後の電力供給が大変懸念される状況である。

本町は、平成21年の水害の際、全国各地から心温まる支援をいただいたことは記憶に新しいところである。戦後最大の国難といえる今回の「東日本大震災」に対して、わが町は被災地支援のために、できる限りの支援行動を篠栗町・篠栗町議会一体となって行いたい。以上、決議する。

平成23年3月14日

篠栗町
篠栗町議会

篠栗町議会としてとり急ぎ、30万円の支援をおこないました。

篠栗町として

360万円の義援金

糟屋地区（古賀市および糟屋郡7町）が一体となり、全体で3000万円の支援をおこないます。支援額は各市町の人口に応じた額です。（一般会計補正予算として計上）

（全員賛成可決）

町議会議員の議員報酬等に関する条例の一部改正（議員全員発議）

現在、議員の期末手当について、福岡県内で本議会のみが加算率が付加されていません。

そのため、議員期末手当の加算率を他の福岡県内市町村議会に合わせて付加し、支給率を平成21・22年度の人事院勧告どおりに引き下げると、本年12月期より適用します。

（全員賛成可決）

一般会計予算

反対討論

永柄 邦彦

今回の予算は、障がい児放課後対策事業では、児童館で実施している児童保育との均衡を考え、障がい児から月額3000円の徴収です。障がい児は、病院代や療育費など見えないところに、お金がかかります。単純に健常児との均衡を計るといのは当てはまらないと考えます。

また、障がい者に対する福祉タクシー券も月間4枚から2枚に削減され、敬老会助成金の削減や、高齢者の紙おむつサービスも削減ですが、この対象者は49名おられ、低年金で一人暮らしの方が多いと聞きました。このように弱者に対する福祉の削減に反対します。

22年度 補正予算

整理が終わり、22年度で老保会計は廃止されました。

一般会計では、事業の入札残や経費節減等の執行残により減額補正となっています。

増額の主なものは、

北勢門小の校舎管理棟及び体育館の外壁塗装防水工事5054万円で、内2442万円は地域活性化交付金を活用したものです。また、国保特別会計の赤字補填のため8597万円を同会計に繰り出しています。その他公債費について8450万円を繰上償還しています。

国保特別会計では、一般療養給付費の減等により、3508万円の減額補正です。

老保会計では、老人医療費100万円の減額で、これにより残務

後期高齢者会計では、広域連合の納付金が確定したことによる3398万円の減額です。

下水道会計では、維持改良工事が当初見込みを下回ったための減によるもので、排水設備改造奨励金600万円の減等、合計1960万円の減額補正です。

水道事業会計では、経費節減等による労力及び電力量の減や建設工事が当初見込みを下回ったことによる減額です。
(すべて全員賛成可決)

補正予算額 (千円単位四捨五入)		会 計	補 正 額	補正後予算額
一 般 会 計		一 般 会 計	▲ 1億1,612万円	94億 460万円
国 民 健 康 保 険		国 民 健 康 保 険	▲ 3,508万円	28億 496万円
老 人 保 健		老 人 保 健	▲ 100万円	147万円
後 期 高 齢 者 医 療		後 期 高 齢 者 医 療	▲ 3,398万円	3億 198万円
公 共 下 水 道 事 業		公 共 下 水 道 事 業	▲ 1,960万円	9億2,864万円
水 道 事 業	収 益 的 支 出	収 益 的 支 出	▲ 850万円	4億7,916万円
	資 本 的 支 出	資 本 的 支 出	▲ 3,000万円	1億2,063万円

2月臨時会 (2月14日)

2月臨時会では2議案が上程されました。

1件は町道乙犬中園線道路改良工事の一部変更についてです。

今後実施予定の町道乙犬切通線の通行状況を考慮し、施工区間を一部減工するもの、また既存の水路規模と機能を有する用排水路を確保する必要があるため、工種及び内容を変更するものです。

併せて工期の延長も行っています。



乙犬中園線

ワクチン接種緊急促進事業

○対象となるワクチン

・子宮頸がん予防(HPV)ワクチン

・ヒブ(インフルエンザ菌b型)ワクチン

・小児用肺炎球菌ワクチン

○無料接種期間

平成23年3月1日～

平成24年3月31日

※ヒブワクチン・小児用肺炎球菌ワクチンの接種について、一時見合わせとなっていました。4月1日から再開されています。

【問い合わせ先】
オアシス篠栗
(国保健康課)

もう1件は一般会計補正予算の増額です。内容は、右記予防接種事業費に763万4千円を追加するものです。

また、諸支出金において、福岡地区水道企業団出資事業費に40万3千円を追加するものです。
(全員賛成可決)

どげんするとなあ？

一般質問とは、議員が執行部に、政策方針などについて、報告や説明を求め、所信や疑問を尋ねることです。ここに掲載したのは要約です。



永柄 邦彦

入院費助成を小学6年まで 拡大の検討結果は

国保健康課長「各市町の今後の取り組みを注視し検討する」
町長「近隣自治体との統一的な取り組みが必要」

問……………

現在、県内の市町村において、子どもの医療費助成制度の中でも入院助成を中学3年生まで実施しているのが、豊前市をはじめ、吉富町、苅田町、みやこ町、築上町、上毛町で、小学6年生までが北九州市、久留米市そして福岡市となっています。また、宗像市では小学6年生まで通院入院とも完全無料の条例改正案が、今度の3月議会に提出され、決まれば9月実施の予定です。これらの市や町では若い人呼び込み、定

着させる為ということが共通の目的です。

昨年の6月議会で「入院助成を小学6年生まで拡大を求める」一般質問をしました。その時の国保健康課長は「糟屋地区の自治体の状況を注視しながら前向きに検討する」との答弁でしたが、その後、どのように検討されたのか見解を伺います。

答【国保健康課長】

糟屋地区の事務担当者会、課長会においても、検討すべき課題との認識は持っています。が、妊婦健診、乳幼児のヒブワクチン、肺炎球菌ワクチン無料接種事業等の財政負担が各市町とも重くのしかかり、実施に向けての意思統一ができない現状です。

今後各市町の取り組みを注視しながら検討します。

問……………

今後、入院通院を含め、子どもの医療費助成の対象年齢引き上げについて、町長の見解を求めます。

答【町長】

小学6年までの入院費助成をした場合、数百万円の財源が必要で、さらに通院までとなると数千万円が必要にな

ります。このような医療費助成拡大は近隣自治体との統一的な取り組みが必要で、今後、引き続き検討していきます。また、医療費助成が厚いから若年世帯層が町に集まるというものでなく、現在も種々取り組んでいます。

篠栗町の子どもたちを育てる、他の自治体になに個性的な環境づくりをトータルに考えていくことが大事だと思っています。



巡回バスの路線延長を

町長「変更は可能・増便は難しい」



大楠 英志

巡回バスはお年寄りの足として大変喜ばれて多くの方が利用されています。更なる利用の増加と利便性を図るために5項目の質問をします。

問……………

巡回バスの運行状況とバス利用者数を尋ねます。

答【町長】

29人乗り小型バス2台を使用し、萩尾・乙犬コース、城戸・和田コースを運行しています。

10年間に延べ50万人の方が利用され、平成

21年度のコース別では萩尾6千938人・乙犬2万3576人・城戸7千108人・和田1万8356人・合計5万5978人となっており、利用者は増加しています。

問……………

山間部には谷あい民家が点在しています。高齢者から『巡回バスの運行を』との要望を聞いています。バス停の設置や移設、バスの乗り入れにはどのような手順、手続きが必要なのか尋ねます。

答【町長】

バス停は開設時、44箇所からこの10年で19箇所増設しています。運行時刻に余り影響ないのがほとんどで、地元の方が区長を通して要望をされています。巡回バスのコース変

更は若干の変更は可能ですが、路線の増発は財政的に難しいと考えています。

問……………

空席が目立っているので、利用者が少ない地域では「小型の自動車にして経費の削減を」との声を聞きます。改善策などは考えてありますか。

答【町長】

山間部の道路では勾配が急な場所があり、無理なく登れるのが今の車輛です。

問……………

小額でも料金を徴収した方が利用しやすい、受益者負担が原則ではないかとの意見もあります。見解を求めます。

答【町長】

無料であることが、利用者増につながって



おり、オアシス篠栗の利用者増の一因にもなっています。

継続して運行していくには受益者負担（100円程度）も検討する必要がありますかと考えます。

問……………

隣接町でも巡回バスの運行が行なわれていますが、更なるサービスや経費の削減等には

問……………

広域的な巡回バスの運行も視野に入れるべきではないか、町長の考えを尋ねます。

答【町長】

バス運行の目的、運賃徴収、設定コース等難しい状況ではありません。将来の広域的な自治への新たな取組みとして検討に値すると考えます。



草場 謙次

森林セラピーオープン後の経緯は

産業観光課長「イベントを催し
認知度を高めていく」

問……………

9月のグランドオープン以来半年が過ぎました。モニターツアーを除き森の案内人を依頼したセラピー客の団体数と総人数はどれ位ですか。

答【産業観光課長】

2月末現在で18団体、142名です。年間目標は1000人を想定しており、目標数には大きく届いていません。今後イベントを催しながら、認知度を高めていきます。

問……………

セラピーガイド料金

はどのように設定していますか。

答【産業観光課長】

弁当つきで一人2500円で、そのうちガイド料は1500円となっています。ガイド料については、森の案内人の会で管理され、ガイドされた方への手当や運営費に充てています。

問……………

セラピーコースの増設は考えていますか。

町には季節感や生物多様性が感じられる候補地が沢山あります。今後の課題として自然味や季節感が感じられる勾配の緩いコースを整備していかないとリピーターは増えないと思いますがいかがですか。

答【産業観光課長】

コースの増設について

ではソサエティの理事長である、今井通子氏が毎年、森林スポーツフェスタ開催時に来町されていますので、今井氏の知恵をかりながら進めていきます。

問……………

町を訪れた方の健康管理はどのように考えていますか。

答【産業観光課長】

森林セラピーが医療行為との認定が行われていない現状におきましては、医療機関との連携は難しいと思われます。将来的には医療機関との連携もあり得ると思います。

問……………

セラピー拠点施設の必要性は。

答【産業観光課長】

既存の施設の活用を第一に考えています。

問……………

これまでに篠栗町を訪れた方で陶芸、そば教室などの体験を希望された方はどれくらいですか。グランドオープンしてからの経済効果はどのようになっていますか。

答【産業観光課長】

陶芸、そば打ち体験の要望への対応については実施しています。1月にセラピーとそば

打ち体験を実施しましたが、降雪のためにセラピー体験は中止しましたが、そば打ち体験は行いました。

今後も協議しながらさまざまなイベントを企画していきます。基地がオープンしていますが、経済効果が現れるところまで至っていません。



中町塵芥処理場の解体は

町長「2億円ほどかかる」



有吉 武喜

問 粕屋町では、生木を破砕機にかけてチップ状にして発酵させ、肥

19年9月議会で「植木の剪定ごみの取り扱い」について、質問を致しました。町長答弁は「剪定木の処理についてはクリーンパークわかすぎへの受け入れ協議を進めることと、跡地利用計画として、剪定ごみや、その他の資源ごみ再利用もしっかり検討し、努力したいと考えます」と答えてあります。関連して次の質問を致します。

料化して町内施設に配布の話をしていました。解体計画がないようであれば、処理場のストックヤードを利用することを再度提案いたしますが、見解を求めます。

答【町長】

須恵町の中山リサイクルにてわかすぎと同額の10kg当たり1000円の処理費で剪定木の受け入れを行っております。

問

解体時期とダイオキシンについてどうなっていますか。

答【町長】

解体には2億円程かかります。跡地をリサイクル施設などに使用した場合に限り、3分の1の交付金が交付されますが、交付要件に町の単独事業が認めら

れません。解体の時期については今のところ言及できません。ダイオキシンについては、平成19年度と20年度に、省令の規定に基づき塵芥処理場周辺の環境調査を実施しました。調査の結果、環境基準に適合しています。

問

クリーンパークわかすぎ（須恵町外2ヶ町清掃施設組合）は、3町の協議で15年契約ですから、篠栗での受け入れは残り7年となります。受け入れ先の話し合いはどうなっていますか。

答【町長】

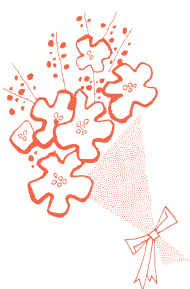
受け入れ終了後の、受け入れ先の協議は3町に志免・宇美町を加えた5町によるブロック会議において、先進地の視察などを行い、

新しい施設を含めて現在模索中です。

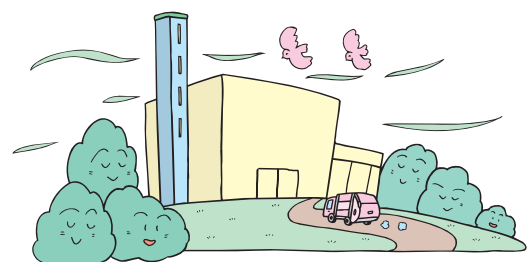
受け入れ期間の残りが7年となり、3町の施設組合も今後の対策を協議致しておりますので、町としても早急な検討を、組合に申し入れて参ります。

表彰

今泉正敏議長と荒牧泰範議員が、平成23年2月、全国町村議会議長会および福岡県町村議会議長会の定期総会にて、自治功労者の表彰を受けました。



今泉正敏議長は、議長として7年以上在職、また荒牧泰範議員は議員として15年以上在職したことによる表彰です。



4年間ありがとうございました。

任期：平成19年5月1日～平成23年4月30日



高濱 守央
議会事務局

今村 浩子
議会事務局

草場 謙次

大楠 英志

永柄 邦彦

清原 眞也
議会事務局長

阿部 寛治

阿高 紀幸

松田 國守

今泉 正敏
議長

後藤百合子
副議長

荒牧 泰範

有吉 武喜

主要委員会の構成メンバー

議会運営委員会	委員長：松田 國守 副委員長：阿高 紀幸 委員：大楠 英志・阿部 寛治・後藤百合子・永柄 邦彦
議会広報編集特別委員会	副委員長：永柄 邦彦 委員：後藤百合子・草場 謙次・大楠 英志・松田 國守

あなたの写真を 議会だよりに載せてみませんか？

【応募要領】 ●町内で撮影されたもの ●人・物・自然などの動きを感じるもの

※写真にはタイトルと簡単なエピソードをつけてください。

【提出先】 篠栗町議会事務局（篠栗町役場3階）＊郵送可。 ＊応募作品は返却いたしません。
＊採用された方には、図書カード500円分を進呈します。

View of SASAGURI

篠栗の風景



お花の下でお弁当

編集後記

千年に一度という未曾有の大震災と大津波、改めて自然の巨大なエネルギーに驚愕を覚えます。東日本大地震で被災された皆様に御見舞い申し上げます。

私たち編集スタッフは今回が最終の作業となります。4年間の発行に「親しみやすい」ようにと編集に取組みました。いかがでしたでしょうか。

発行責任者

議長 今泉 正敏

議会広報編集特別委員会

委員長	永柄 邦彦
委員	後藤百合子
委員	草場 謙次
委員	大楠 英志
委員	松田 國守

お知らせ

次回の6月定例会は、6月9日からの予定です。一般質問は13日の予定です。お気軽に傍聴にお越しください。

●ざかいジャーナルへのご意見・感想をお聞かせ下さい。